

## ◆ 2021 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 鴻巣こうのとりを育む会

24A-30

代表者：代表理事 伊藤 鑄義

URL :

---

### 1. 活動が必要とされた状況

休耕田を利用した湿地、無農薬モデル水田の畔管理などは、生物多様性再生の観点から除草剤の使用はできない。そのため鎌やエンジン式刈払機を使用した除草作業を行っている。刈払機も 10 余年使用したため、最近修理に要する時間も増えた。そこで、軽重量の充電式草刈り機へ切り替え、作業者の負担軽減も考慮し、活動の効率化を図る必要が生じてきた。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

昆虫類やカエルなどが生息できる環境を守りながら、草類の刈取り作業を実施した。

カエル類が好む草丈は 50 センチ以下との研究結果もあり、草丈なども考慮しつつ作業日程を決定した。

草類は、刈取り作業のほか、外来種は、併せて抜き取りも実施している。作業は会の役員が中心であるが、毎回 10 人位が参加した。



### 3. 活動の成果

休耕田利用の湿地には、絶滅危惧種の動植物が出現するようになった。人間が関与する管理は必要最低限に抑えることにより、健全な生態系が再生できた結果と思っている。

また、無農薬の田んぼには、クモ類、イナゴなどの昆虫やこれらを捕食する鳥類が多数飛来するようになった。

コウノトリ野生復帰センター(天空の里)で放鳥されたコウノトリが採餌場として利用することを願っている。



### 4. 今後に残された課題

コウノトリの採餌場所は湿地が中心である。このため無農薬・有機栽培のコメ作りや休耕田の湿地化などを拡大していく必要がある。

今後も、営農家の皆さんと協働して憩いの場所の提供、あるいは生き物調査などの活動を進めるに当たり、高齢者ではなく若者が中心となる会へと転換を図り、活動を継続していくことが必要である。